

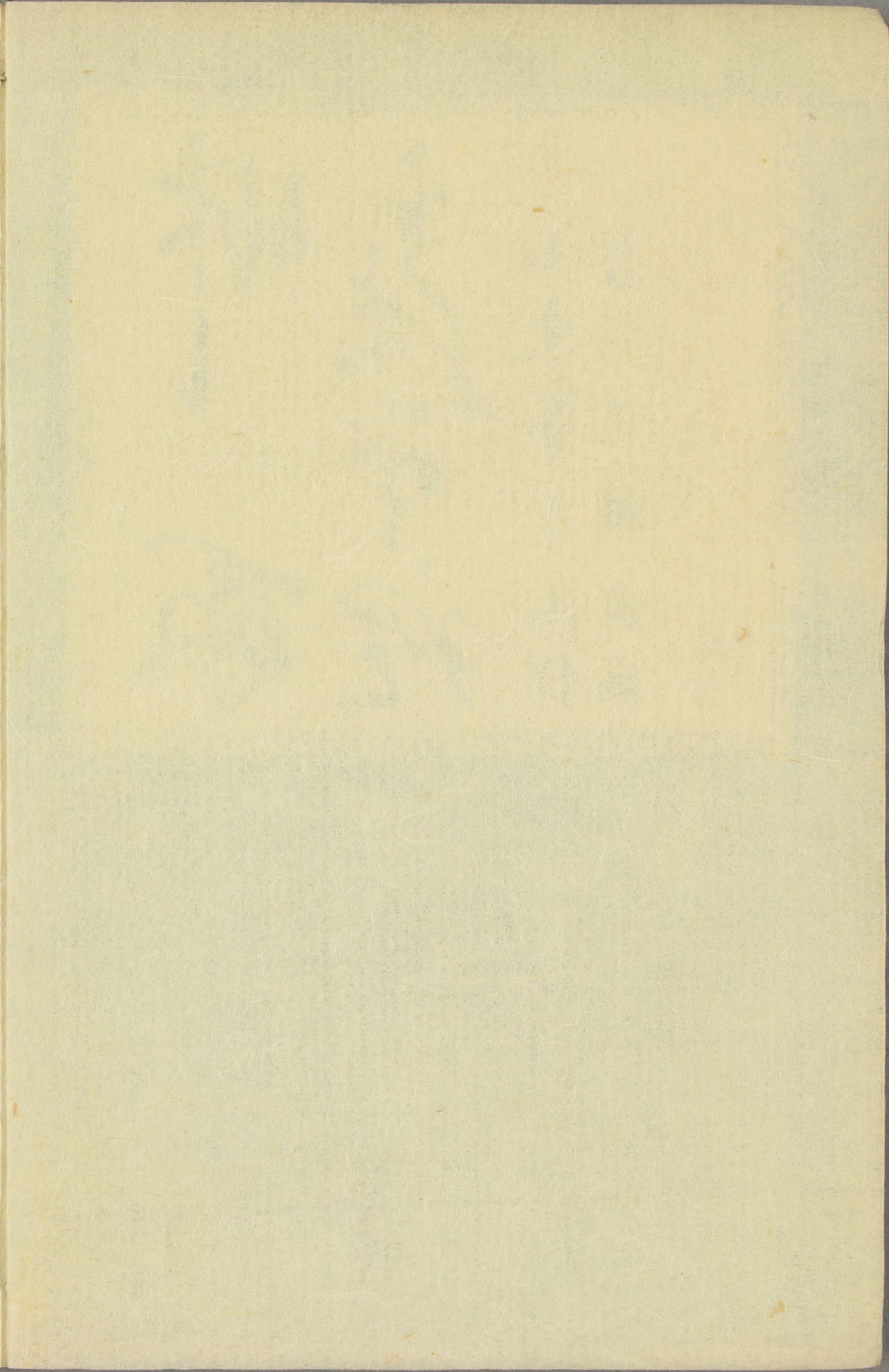
味取
 多法の理
 山東葺京山作
 香蝶樓國貞画
 五編

^ 13
 3690
 5





新編浮世草子



京山作

森治
梓



竹と五
五編
下

竹取物語五編上



京山作
國貞画

森治
梓

竹と五
五編
下



竹取物語五編上



門へ13
號3690
卷5

五編

竹取物語

冊

壹

天保十一
子春脱稿
同冬上梓
發販
錦森堂

狂詩七絶

竹取五編抄板成園貞、盡の

動人情、小供、茶、玉草、双子、晒取

年、裁作、名

近来作者多、如、凡、虫、誰、又、此、中、凡、虫、乃

頭採、筆、雜、書、人、癖、形、一番、下、大

是山東

京山人題





空身の鹿

天女相づひ

④ 松本 琴
 あり 舞
 世に 舞
 世に 舞

下野
 あり 舞
 あり 舞
 あり 舞



○ 偶目河謡曲

あつらひ 舞
 あつらひ 舞
 あつらひ 舞

① 通行人
 何と尋ぬらん
 きくものふらふら

あつらひ 舞
 あつらひ 舞
 あつらひ 舞

あつらひ 舞
 あつらひ 舞
 あつらひ 舞



④ 花の...
 ① 松の...
 ② 木の...
 ③ 草の...
 ⑤ 水の...
 ⑥ 土の...
 ⑦ 空の...
 ⑧ 地の...
 ⑨ 人の...
 ⑩ 物の...
 ⑪ 事...
 ⑫ 時...
 ⑬ 所...
 ⑭ 方...
 ⑮ 向...
 ⑯ 背...
 ⑰ 側...
 ⑱ 前...
 ⑲ 後...
 ⑳ 上...
 ㉑ 下...
 ㉒ 中...
 ㉓ 内...
 ㉔ 外...
 ㉕ 左...
 ㉖ 右...
 ㉗ 東...
 ㉘ 西...
 ㉙ 南...
 ㉚ 北...
 ㉛ 東...
 ㉜ 西...
 ㉝ 南...
 ㉞ 北...
 ㉟ 東...
 ㊱ 西...
 ㊲ 南...
 ㊳ 北...
 ㊴ 東...
 ㊵ 西...
 ㊶ 南...
 ㊷ 北...
 ㊸ 東...
 ㊹ 西...
 ㊺ 南...
 ㊻ 北...
 ㊼ 東...
 ㊽ 西...
 ㊾ 南...
 ㊿ 北...



④ 花の...
 ① 松の...
 ② 木の...
 ③ 草の...
 ⑤ 水の...
 ⑥ 土の...
 ⑦ 空の...
 ⑧ 地の...
 ⑨ 人の...
 ⑩ 物の...
 ⑪ 事...
 ⑫ 時...
 ⑬ 所...
 ⑭ 方...
 ⑮ 向...
 ⑯ 背...
 ⑰ 側...
 ⑱ 前...
 ⑲ 後...
 ⑳ 上...
 ㉑ 下...
 ㉒ 中...
 ㉓ 内...
 ㉔ 外...
 ㉕ 左...
 ㉖ 右...
 ㉗ 東...
 ㉘ 西...
 ㉙ 南...
 ㉚ 北...
 ㉛ 東...
 ㉜ 西...
 ㉝ 南...
 ㉞ 北...
 ㉟ 東...
 ㊱ 西...
 ㊲ 南...
 ㊳ 北...
 ㊴ 東...
 ㊵ 西...
 ㊶ 南...
 ㊷ 北...
 ㊸ 東...
 ㊹ 西...
 ㊺ 南...
 ㊻ 北...
 ㊼ 東...
 ㊽ 西...
 ㊾ 南...
 ㊿ 北...

仙居五編

△おあひこふりませうら
あふいたさえのうでまろり
そまうらうのまむ女中
さあ●まきよ川
ア●ちちのり
あちちのりトヤト
さけのまきよ川
あまきよ川
るんとまきよ
るりけり
まきよ川
小まきよ川
つらまきよ川
このまきよ川
つらまきよ川



まきよ川

山東巷京山作
香蝶樓國貞画

竹取五
編上終



まきよ川

●ちん元口上
京を南元ま町
三丁目坂か
糸のまきよ
おあひこ
あまきよ
黒油
美女香
四人瓶
おあひこ
なまきよ
上ひ

竹取五編之下牙五の辰其二

かくて次の日つるの初せかきあのみまよ川を
つらきまよ川をよひてこまよ川をよひて
つらきまよ川をよひてこまよ川をよひて
つらきまよ川をよひてこまよ川をよひて
つらきまよ川をよひてこまよ川をよひて
つらきまよ川をよひてこまよ川をよひて
つらきまよ川をよひてこまよ川をよひて
つらきまよ川をよひてこまよ川をよひて
つらきまよ川をよひてこまよ川をよひて
つらきまよ川をよひてこまよ川をよひて





やうく入るやん
せうくうさきをれん
さアアアアアア
あも百あはう
さえるさきも
あの一さきん
あの一さきん
うさきん
とさきん

ひあまき
うさきの
うさきの
百あ
あまの
あまの
あまの
あまの

百あ
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの

百あ
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの



ひあまき
うさきの
うさきの
百あ
あまの
あまの
あまの
あまの

やうく入るやん
せうくうさきをれん
さアアアアアア
あも百あはう
さえるさきも
あの一さきん
あの一さきん
うさきん
とさきん

ひあまき
うさきの
うさきの
百あ
あまの
あまの
あまの
あまの

ひあまき
うさきの
うさきの
百あ
あまの
あまの
あまの
あまの

ひあまき
うさきの
うさきの
百あ
あまの
あまの
あまの
あまの



あつた人の
命あかりの
とんまされ
いさあり
やうい
たのの
おのの
けのせい
わてのせい
二世のせい
大のせい
あつた人の
命あかりの
とんまされ
いさあり
やうい
たのの
おのの
けのせい
わてのせい
二世のせい
大のせい

又上

下

五の七



四五五
のうち
くまされ
いさあり
やうい
たのの
おのの
けのせい
わてのせい
二世のせい
大のせい

左見

五の七

又上

下



京山作 國貞画



月夜の清き光に照らし、
 二人の情がこぼれ、
 涙は花びらのよう、
 散りゆく。あはれな
 恋は、夢の如し。

この場面、
 二人の別れ、
 切なる情が、
 心に響く。

左のん

右のん

竹取五編下終

此の場面、
 二人の別れ、
 切なる情が、
 心に響く。

京山の作、
 國貞の画、
 情のこぼれ、
 涙の花びら。

